

第13回 2010年「まちの活性化・都市デザイン競技」審査講評

■総評

都市は多様な人々が集い、創造的活動を行うことで活性化する。今回の応募作品は多様なプログラムを包含するクラスターを丁寧に埋め込んで、一人一人の顔の見える緻密なデザインが多かったことが特色の一つであり、この点からヒューマンスケールの都市デザインという新しい潮流を感じさせた。また新しい静岡へと大きく生まれ変わることを提案した作品が多く、今後の展開に向けた多様なアイデアが集約されたように思われる。その一方で、全体的に同種の案が多く、個性的な提案が少なかったようにも思われた。

全体に建物が中規模で都市になじみ、回遊性が高く、地面を歩く楽しみがイメージできる作品が高得点を得たように思われる。

■国土交通大臣賞（作品No.05）

○コンセプト：七間座に集う

～まちと市民が共に成長する文化づくり～

○講評：

「七間座」という、市民が集える「場、空間」を多面的にまちに展開するという明確なコンセプトの下に、極めて緻密な都市デザインを展開している。活、遊、食、職、学、生、交という多様なプログラムを導入し、小さなものの集合体が響き合うことにより、まちに活力が生まれるというプロセスが伝わってくる作品である。

また、映画館跡地に計画された建物は周辺の建物とのバランスに配慮され、スケール感の上でも、建築群の表現の点でも魅力的なまち空間をつくり出すことに成功している。

敷地単位で単体のマスを配置する案が数多くある中で、当案は細かい路地を積極的に導入し、人間中心の視点に立って、人々の自発的なクリエイティビティや楽しみを生み出す魅力的な場を創造するための多様なアイデアを提案しており、こうした点が高く評価できる。

■まちづくり月間実行委員会会長賞（作品No.40）

○コンセプト：『しあわせな時間』

～共に創り、分かち、振り撒く～

○講評：

「しあわせな時間」というテーマで、まちの中に出逢いの場を創り出し、またLRTの導入により自動車の通過交通を低減しつつ人の回遊空間を生み出そうとしている。

映画館跡地に計画された建物は多様で多彩な機能を適度に分節化した建築で構成し、周辺の建物と上手く調和した心地よいスケール感となっている。

また外部空間と建物との関係についてよく考えられており、七間町通りの公共空間を軸にヒューマンな路地、広場空間を創り出すことに成功している。道と広場を街の居間として楽しく活用できる魅力的な都市空間が提案されており、都市デザインの本質を理解した秀作である。

■財団法人都市づくりパブリックデザインセンター会長賞（作品No.38）

○コンセプト：しぞ～か七ぶら再創造

学んでよし！楽しんでよし！住んでよし！～「出会い」と「つながり」があるまち～

○講評：

まちづくり大学とまちなかキャンパスを中心に据え、人が集まる仕組みを内包したプランである。考え方が明確で、市のもう一つの都心コアとしての発展性が大いに期待できる実現性の高い案であることが評価できる。

都市デザイン、建築デザインの点ではやや物足りない点があるが（ただしパースは楽しげで好感が持てる）、機能の捉え方で学生施設を中心に据えたことは極めて現実的であり、中心市街地活性化の切り札になることも期待できる。

■奨励賞（作品No.16）

○コンセプト：史的文化磁場の再生

～芸・緑・道が織りなす回遊劇場～

○講評：

都市の縮退という時代に、街の中にモザイク状に緑を積極的に取り入れてアメニティを高めるといふ考え方の下、オープンスペースの緑化と環境建築的発想を重視した提案である。植生の質、生き物、エコロジカルネットワークをも視野に入れ、緑を街中で如何に取り入れていくかに、きめ細かい配慮がなされており、こうしたオープンスペースを軸とした提案は他と比べてユニークであった。

■奨励賞（作品No.25）

○コンセプト：まちのミュージアム

～情報の受信・発信による地域活性化提案～

○講評：

まちの活性化を生み出す源泉として、情報の受発信の場として「まちのミュージアム」を位置づけ、まちづくりの進め方を重視した案であり、建て替え、減築、コンバージョン、耐震補強と多彩な建築的手法を駆使して街区の建築のあり方を探ったところが評価できる。映画館跡地における提案のスケール感がとても良く、コンバージョンも現実的である。

■静岡市長賞（作品No.25）

○コンセプト：還暦パラダイス

～元気な熟年層のためのオンディマンドなまちづくり～

○講評：

本作品は、来街者のターゲットとして「還暦」を設定し、熟年世代も元気に街に出たくなるような提案が多くちりばめられています。これは、静岡市においても、今後、まちなかのライフスタイルの重要なテーマの一つになると考えられます。

■静岡市長賞（作品No.43）

○コンセプト：七間アートプロジェクト

○講評：

本作品は、既存の都市空間上に「第2の大地」として人工地盤を設けて、もう一つの世界をつくり出すという大胆な構想を提案しつつ、細かな空間イメージについても独特のタッチで丁寧に表現しています。他の作品に比べ、経済性・合理性とは別の価値観を強く意識させられる点で、際だってユニークであり、多くの審査員に強い印象を与えた提案でした。

なお、本作品は、建築学科を持つ地元の高校の生徒たちによる提案であるとのことでした。自分たちが暮らす街について考えた貴重な経験が、将来に活かされることを期待します。